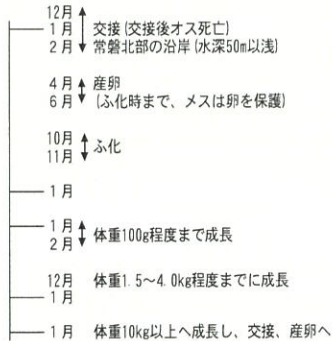


ミスダコ（地方名：アマダコ）



生態

- 年齢・成長：ふ化期は10～11月、翌々年の1～2月に体重100gまで、その年の12月には体重1.5～4.0kgまで成長します。
- 成熟・産卵：常磐海域においては、外套長25cm以上で成熟し、交接器を持つ個体がみられます。交接期は12～2月、産卵期は同年の4～6月です。
- 分布・移動：常磐海域においては、主に36°20' N以北の水深300m以浅の海域で分布がみられ、36°20' N以北の海域で分布量が多くなります。
- 食性：魚類、甲殻類、貝類、イカ・タコ類が主体です。



常磐海域におけるミスダコの生活史の想定概念

漁獲の動向

ミスダコは主に底びき網漁業及びかご漁業により漁獲されます。漁獲量は平成12、13年に500トンを下回りましたが、その後増加し、539～1,239トンで推移しました。震災後、平成24年から操業が再開され、令和4年の漁獲量は28トン、漁獲金額は18百万円であり、震災前(平成22年)に対する割合はそれぞれ4%、7%でした。

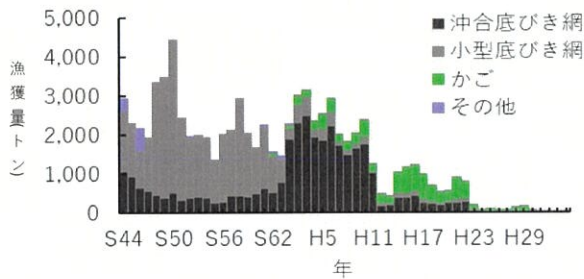


図1 ミズダコの年別漁業種類別漁獲量

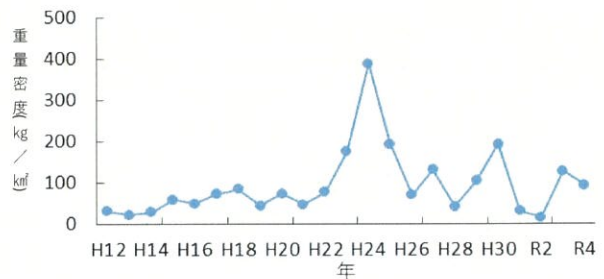


図3 調査船調査におけるミスダコの重量密度

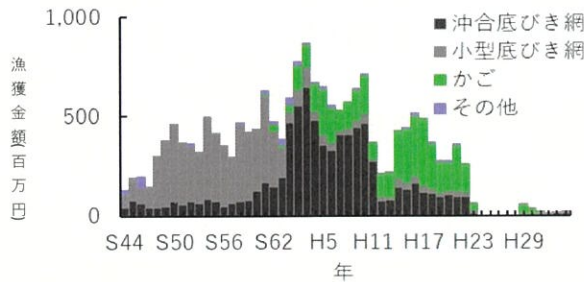


図2 ミズダコの年別漁業種類別漁獲金額
H24～29年は相対取引のため漁獲金額データなし

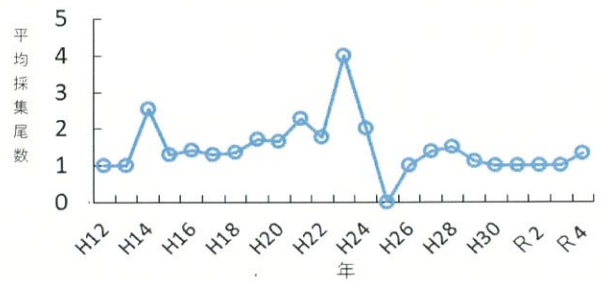


図4 調査船調査における曳網1回当たりのミスダコの小型個体(1kg未満)の平均採集量

資源の状態

現在、底びき網漁業による漁獲量が震災前の20%程度であることに対し、ミスダコの漁獲量が震災前の3%であるため、本県沖のミスダコ資源は、低位の状況にあると考えられます。

資源の水準：低位
資源の動向：横ばい

現在実施されている管理策

相双地区の沖合たこかご漁業では一度の水揚げで一隻あたり30個体までの自主規制がなされています。

考えられる管理策

小型個体の再放流